

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年2月19日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870600719
事業所名	グループホームまなべ
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	久門 房恵
自己評価作成日	令和 2年 1月 20日

<p>【事業所理念】                  ○入居者一人ひとりが自立した生活を営むことが出来るよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供及び支援をいたします                  ○一人ひとりが穏やかに、よりいきいきと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供出来る様努めます                  ○主治医や協力病院と連携して、入居者が健康に生活できるよう援助します                  ○地域の人達との交流を図り入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます                  ○市町村地域の保健医療福祉サービスと連携して総合的なサービスの提供ができるよう努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】                  利用者個々の情報が職員全員で共有できるよう用紙を作成するよう試みた。社員での話し合いでは上手くまとまらず、グループ内で使用している用紙を活用している。情報を得た都度の書き込みが十分に出来てなく、今後継続して取り組んでいく。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】                  住宅地の中に立地する事業所は、有料老人ホームに隣接されている。これまで地域住民に信頼される事業所として法人全体で積み上げてきた実績があり、作業療法士の専門的指導や緊急時の医療対応等、関係医療機関との連携を密に取ることができている。職員は利用者一人ひとりが持っている力を発揮しながら、自分のペースで過ごせるよう努めており、行事担当職員を配置して、毎月のお楽しみ会や食事を企画し、利用者の暮らしに変化が持てるよう支援している。また、保育園児や小学生、ボランティアの人々との交流の機会も多く、移動図書館が駐車場に停留するなど自然な形で近隣住民と交わる機会がある。事業所では利用者が相互に関心を寄せながら、穏やかな表情で過ごしている様子が印象的であった。</p>
---	--	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	希望や思いを伝えられない方が多いが日常の中で会話や様子から思いを知るように心掛けている。	◎		○	職員は知り得た情報をもとに、利用者の好きなことを話題にして思いを引き出すよう努めている。思いを表すことが困難な利用者には、表情や行動で推測したり、家族に確認したりするなど、把握できるように努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	本人様の側に立って考え社員同士で話し合い検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会に来られた時に家族に伺うようにしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の発した言葉を生活記録や申し送りノートに記録し共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者個々の立場に立って思いを把握できるよう努めているが見落とししている場合もある。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時入居後に本人、家族ケアマネなどから情報を聞き取っている。			○	入居時に、今の私の姿や昔の生活を家族に記入してもらい、利用者の馴染みの暮らし方等の情報を収集している。また、関係機関や利用していた介護サービス事業所からも情報を得て、フェイスシートに記録している。現在、職員間で書式を検討しており、利用者理解に役立てようとしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	△	利用者一人ひとりの状態に合わせて出来ること出来ない事の把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	個別の生活記録を使用し状態の変化に気づくよう努めている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	△	利用者の日々の態度や表情を敏感に把握するよう努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	毎日の個々の生活記録から状態把握に努めている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	毎月のケース会で検討している。			○	一人ひとりのできることに注目して、職員は利用者が力を発揮しながら、それまでの暮らしが続けられるよう考慮して生活課題を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	毎月のケース会で検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	検討した内容を介護計画に取り入れている。				

愛媛県グループホームまなべ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	利用者・家族からの意見を聞き作成するよう努めている。				職員は利用者や家族から聞き取った意向を大切に考え、介護計画に取り入れている。医療情報は、かかりつけ医の診療時に得た情報を計画に反映させている。	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ケース会で検討し介護計画に反映出来る様努めている。	○				
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方に対しても家族等の意見を参考に無理のない計画を作成している。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の方に協力を働きかけお願いしている。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	職員一人ひとりが把握出来る様努めている。			◎	毎月開催するケース会でカンファレンスを実施し、職員は介護計画の内容を理解して共有している。介護計画は利用者一人ひとりの生活記録に綴じ、職員は日々確認しながら支援を行い、サービスの実施状況を記録してモニタリングに反映させている。また、利用者の言葉や行動を記録に残し、利用者理解に努めている。職員の気づきや提案は気づきノートに記載し、共有できるよう工夫している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	定期的なモニタリングを行いケース会で社員間で話し合っている。					○
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別の生活記録に記録しているが具体的な内容が記入できていないこともある。					○
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	日常生活の中で職員の気づいた事等記録に残している。					○
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月に1度又は状態に応じて見直し更新している。			◎	3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。職員は毎月モニタリングを実施し、介護計画のサービス実施状況を確認している。状態の変化があった利用者にはその都度介護計画を見直している。状態に変化がない利用者にも3～6か月に1回カンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回モニタリングを行い状況確認を行っている。			◎		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の状態に応じて見直し作成している。					○
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的なケース会や申し送り等で随時話し合っている。				○	毎月開催するケース会や期間ごとのカンファレンスで話し合うとともに、緊急時はその都度職員間で協議して検討している。職員は話し合った内容を申し送りノートに記載するとともに、議事録を作成して情報共有に漏れがないよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	個別の状況報告は担当社員が実施し意見交換を行っている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	開催日時を事前に知らせて予定に組み入れてもらっている。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	◎	議事録を作成し情報を共有している。				○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	申し送りノート気づきノートを活用し情報を共有している。				○	職員が共有すべき情報は申し送りノートや気づきノート、会議録を活用して伝達している。職員は確認後にサインをして確実に共有できるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートを活用して伝達し、確認した者はサインを記入するようにしている。		◎			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	個々の意見を取り入れる様努めているが実現できない時もある。	/	/	/	職員は生活のあらゆる場面で質問形式で利用者に声かけを行い、自己決定ができるよう支援している。困難な利用者には、一人ひとりの能力に応じて自分で選択ができるよう職員は声かけを工夫している。職員は利用者が笑顔になるよう話かけ、和やかな雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	何かを行う時には利用者を選んでもらうような声掛け支援を行っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	利用者の気持ちを汲み取り、希望する事が出来るよう支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	出来る限り利用者一人ひとりの習慣ペースを大切にしたい支援を行えるよう努めている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者とのコミュニケーションの際には表情や感情を引き出すよう留意している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	意思表示の困難な方には、目や顔の表情を観察しその人の立場に立って思いを把握する様努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	尊厳・尊重の姿勢で接し常に相手の立場に立った行動声掛けを心掛けている。	/	◎	○	毎月開催する学習会で、職員は人権や尊厳について学んでいる。職員は利用者の生き方を尊重して思いやりを持って関わるよう努めており、誇りやプライバシーを損なわないよう言葉遣いにも留意している。排泄の失敗があった場合には、職員がそれとなくトイレに誘導したり、入浴時には同姓介助を行ったりするなどの配慮をしている。居室の扉は閉じられており、職員はノックした上で声をかけて入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者一人ひとりに敬意を払い目立たずさりげない声掛けを心掛けている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	プライバシーに配慮した声掛け支援を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への出入りは本人の了解お待て行い、ノックして入っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	勉強会等で理解している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	食事の片づけや洗濯ものたたみ等一緒にいき感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	職員は利用者の性格を把握し、トラブルにならないよう間に入っている。利用者同士が口論になった場合には座る場所を変えたり、利用者の気分転換したりできるように支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	リビングで利用者同士が気遣う会話が聞かれる	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員が間に入り利用者同士が関われるよう努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	常に職員が間に入り利用者同士のトラブル解消に努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームまなべ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時の聞き取りや本人との会話の中で把握するように努めている。	/	/	/	/
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居時や面会時に聞き取りを行い把握するよう努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	日々の散歩で馴染場所を目にできるよう支援している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	いつでも気軽に面会に来ていただけるようにしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	可能な限り職員が付き添い散歩やドライブ等を行っている。	○	○	△	事業所周辺を散歩したり、大型車輛を活用して季節ごとの花見に出かけたりしている。現在、職員の勤務体制上で外出が困難になっており、職員は工夫して利用者の外出できる機会を増やしたいと考えている。駐車場にベンチを置くなど、重度の利用者にも戸外に出る機会が増えるような工夫を期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	協力は得られていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	個々の状態に合わせた外出の支援を行っている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族の方に協力をお願いしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会で認知症について理解し、個々の利用者の日々の状態把握に努めケアを行っている。	/	/	/	定期的に法人に所属する作業療法士の来訪があり、職員は指導を受けて利用者一人ひとりが持っている力を活かせるよう支援している。また、日常生活の中で家事の手伝いなど、利用者が役割を持って生活できるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	生活の中でお盆拭き等の家事や作業のお手伝いをしていただきADLの維持向上に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	職員は利用者寄り添い残存能力を生かした支援を行うよう努めている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	アセスメントを行い利用者個々の出来ること出来ない事を把握するよう努めている。	/	/	/	職員の動きを見て、職員に「手伝いをする」と声かけてくれる利用者もおり、お盆拭きや洗濯物たたみ、モップがけを一緒にしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者がしたい事出来ることを把握して、役割を担ってもらえるよう支援している。	◎	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域との関わりはあまり持っていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者本人と相談しながら衣類を選んだり理容を行っている。				定期的に事業所では訪問理美容サービスを利用することができ、すべての利用者が清潔な容姿で過ごしている。髭剃りが不十分な利用者には入浴時に職員が整えたり、不適切な服装が見られた利用者には無理強いをしないで、それとなく更衣してもらったりするよう配慮している。重度な状態であっても、職員は利用者の毎日更衣や整容をして、清潔に過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	髪形や服装持ち物など本人の好みで可能な限り整えられるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員が寄り添い一緒に選択できるよう支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族の協力を得てその季節に応じた衣類を準備してもらっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたり上げなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	本人のプライドを傷つけないよう十分配慮し声掛け支援を行っている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	○	ホームに理容師が来てくれている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさが保てるよう支援している。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	嚥下や咀嚼の状態を把握し支援が必要な利用者には介助している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○		食材の下ごしらえ等出来る家事は一緒にしている。			○		
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○		個々の出来ることをしてもらい感謝の気持ちをその都度伝えている。					
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○		アセスメントにて把握している。					
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○		季節感を感じさせる旬の食材や利用者にとって懐かしいおやつ献立を取り入れている。			◎		
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○		利用者一人ひとりの状態に合わせた食事形態を工夫している。					
g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	△		大半はホームで準備した食器を利用しているが個々の状態に合わせた食器を使っている。			△		
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○		職員と一緒に食事することで周囲の見守り支援を行っている。			○		
i	重度な状態であっても、調理の音や匂い、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○		調理の音や匂いメニューについての会話をしている。		◎	○		
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎		食事水分の摂取量を記録している。					
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○		食事水分の少ない方には、その方が摂取しやすいものや味付けを工夫している。					
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△		栄養バランスを考えて献立を決めている。			△		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○		調理器具食材の衛生管理に留意している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会にて理解し、口腔ケアに気を付けている。				職員は口腔ケアの重要性を認識しており、毎食後ほとんどの利用者の口腔ケアを行い、口腔内の状況を把握している。使用している義歯は、每晚洗浄して清潔を保っている。家族の要請で訪問歯科診療を活用している利用者もいる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後口腔ケアの声掛け支援を行い、口腔内の状態を把握するよう努めている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	行っていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	△	出来る方には、声掛けて職員と一緒にやっている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	介助の必要な方は介助自分で出来る方は確認を行っている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	不都合があるときには、家族の付き添いで歯科受診等お願いしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強会等に参加して理解している。				日中夜ともに職員は利用者がトイレで排泄できるよう支援している。夜間のみ、おむつやポータブルトイレを使用する利用者もいる。排泄用品の使用は職員間で話し合い、試行錯誤しながら時間帯や排尿状態に適した物を選択している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会等に参加して理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	個々の記録にて把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人ひとりに合わせた支援を行っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事形態や水分量をチェックし、運動を促す等の支援を行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	日々の記録を活用して排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	利用者の状態に合わせて夜間帯は紙オムツを使用等の対応を家族職員と話し合い使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	時間帯や状態に合わせて使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食事形態や水分量をチェックし、運動を促す等の支援を行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	利用者一人一人の希望に添えない事もあるが、出来る限り時間や温度等を聞きながら行っている。	◎		○	2日に1回の入浴を基本として、和式の家庭浴槽で職員は利用者がゆっくりと入浴できるよう支援している。利用者の習慣を大切に考え、職員は湯の温度や時間など、できる限り希望に添えるよう努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	お湯の温度や入浴時間に配慮し、ゆったりと過ごせるよう配慮している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	利用者の状態により介助方法を工夫している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いはせず声掛け対応している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前のバイタルチェックを行い状態の把握に努めている。				

愛媛県グループホームまなべ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	日々の記録にて把握している。	/	/	/	眠剤を常用している利用者は少なく、日中を活動的に過ごしてもらったり、職員は不安感に寄り添ったりする工夫をしている。利用者がなるべく薬剤に頼ることのない安眠や休息ができるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の行動量を増やすことで夜間良眠につながる様工夫している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	薬剤に安易に頼るのではなく日中の過ごし方を検討し対応している。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	食後や入浴後等居室での静養をされる方もいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人からの要望があれば電話や手紙のやり取りが出来る様支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	声掛けをし要望があれば一緒に行えるように支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	要望があればいつでも出来る様配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	返信出来るよう支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	帰宅願望のある方には、電話を掛けることを、家族に了承してもらっている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解しているがお金所持していない。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	必要品は家族に依頼している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	家族との相談の上でお金を所持される方はいないので支援できていない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	話し合い同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その都度要望に応じて対応している。	◎	/	○	協力医療機関の受診は職員が付き添い、他科の受診に家族が付き添えない場合にも柔軟に対応している。訪問マッサージを利用したり、家族の協力を得て馴染みの美容院へ出かけたたりできるよう支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(3)生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気軽に出入り出来る様日中は玄関を開けている。	◎	○	○	玄関先には季節の花が植えられ、庭にある広い菜園では野菜を栽培している。日中玄関は施錠されておらず、気軽に出入りすることができる。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	共用スペース等は季節ごとに飾りつけを行っている。	◎	○	○	ユニット入口を入るとすぐにリビングがあり、オープンキッチンのある共用空間は明るい印象である。清掃が行き届き、清潔に管理している。毎月、行事担当職員が行事写真や季節にあった飾り付けをしており、季節感が感じられるよう工夫している。また、塗り絵やパズル、新聞等を置いて、利用者はいつでも手に取ることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	常に清潔に保たれるよう整理整頓清掃に気を使っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じられるようなディスプレイにしたり、花を飾ったりしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者が思い思いに談話したりして、過ごせるよう配慮している。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	プライバシーに配慮した作りになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居時には本人の使い慣れたものを持ってきて頂くようお願いしている。	◎	/	○	居室にはベッドが設置されており、自宅で使用していたソファやテレビなどを配置している。家族写真や誕生日祝いの色紙等を飾っている利用者もあり、居心地の良い空間となっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	廊下・トイレ・風呂等に手すりがあり安全に移動出来る様配慮している。	/	/	◎	車いす移動する利用者にとっても、事業所内は安全に移動ができる生活空間になっている。トイレ表示を分かりやすく掲示したり、居室を間違えたりしないよう、門札の位置や表示を利用者に合わせて工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室にネームプレートを付けたり、トイレ浴室等に名前を表示しわかりやすくしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者の使い慣れたもの、思い出の品等を持参してもらっている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	勉強会等で理解していて、日中は鍵をかけない支援をしている。	◎	◎	◎	職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、建物の玄関やユニット出入口は開放されている。見守りを強化して外出しようとする利用者には職員から声をかけ、一緒について歩くなどの支援をしている。落ち着いた利用者や職員が自宅まで一緒に帰り、安心してもらったこともある。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠を望む家族はいないし、望む場合は話し合っていく。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	利用者の日中の様子を把握し帰宅願望のある方等に気を配っている。外に出ようとされる時は、声を掛けたり一緒に散歩に出たりしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	△	入居時のアセスメント、家族からの情報にて把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	常に利用者に気を配り何か変化があれば必ず記録に残しすべての職員が把握できるようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医・看護職とは連絡相談を密に取っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	病院への受診は基本は家族が行っているが、必要に応じて職員が行っている。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人家族の希望に沿った病院で受診できる様支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	必要に応じて家族への連絡相談を行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時にサマリーを提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	治療経過を含め今後の生活等について家族病院と情報交換を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	連絡を密に取っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	主治医とは報告・連絡・相談を行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医とは24時間体制で相談できる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日頃から利用者の状態等観察し変化があれば対応できるようにしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋をいつでも見て、確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬ミス等無いよう常に社員同士で、チェックする体制をとっている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	利用者の状態を常に観察し変化を見逃さないよう努めている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	情報提供を行い相談している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に状態変化の段階ごとに本人家族等と話し合いを行い意向や支援の内容について話し合いをするようにしている。	/	/	/	入居時に「終末期をどこで迎えたいか」の意向を利用者や家族に確認している。容態の変化があった場合にはその都度、家族や医療関係者が話し合っ方針を共有している。法人の母体が医療機関であり、緊密に連携して対応している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	必要に応じて主治医と相談し支援内容を検討している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	社員との話し合いや主治医との連絡を密にしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	施設でできること・できないことや対応方針についての説明話し合いを持つようにしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	かかりつけ医との関わりによって今後の変化に備えて検討している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族等の心情を受け止め相談しやすい関係づくりに努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会等で行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症マニュアルを作成し対応出来る様になっている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	インターネット等を通じて地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	近隣の情報収集に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	常日頃から気をつけている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の方からの話を良く聞くよう心掛けている。	/	/	/	花見や夏祭り、敬老会等の行事に、家族が参加できるよう案内している。毎月、担当職員は手書きの日常生活報告書を作成し、行事写真と一緒に家族に送付して利用者の暮らしの様子を伝えている。県外に居住する家族には、適宜職員から電話をかけ意思疎通を図っている。また、来訪時には必ず職員から家族に声をかけて利用者の様子を伝え、要望を聞くよう努めている。介護保険制度の変更や人事異動の報告は運営推進会議で行っているが、家族の参加が得られていない状況があり、周知できるような工夫を期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	気軽に訪ねていただけるようにしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事参加への案内をしている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月日常生活報告書で利用者の暮らしぶりや日常を伝えている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	家族の知りたい事を確認し、報告できるように努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	本人の気持ち家族の要望を傾聴しより良い関係が築ける様支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	その都度文書にて伝えているが、職員に関してはほとんど伝えていない。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	家族同士の交流はほとんどない。行事の時に同席の方とお話をいただいている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	契約時に説明し、状態変化の都度話し合いを行っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族の面会時にお話をさせてもらい、いつでも話掛けやすい雰囲気を作るようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には丁寧な説明を心掛け内容を理解した上で同意してもらっている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去を検討状況になった時には本人、家族と話し合い同意をえるよう、納得がいく退去先に移れるよう支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	利用料金等に変更があった場合は理由や内容を文書で知らせ同意を得るようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で地域の方に対して事業所の説明を行い理解を得る様働きかけている。	/	◎	/	事業所の駐車場は定期的に移動図書館の停留場になっており、近隣住民も訪れている。かつて飼育していた犬の散歩を担当してくれていた住民や、菜園の管理をしてくれる住民もおり、近隣住民と親密な関係を築いている。また、事業所には保育園児や小学生の来訪してくれたり、七夕会や敬老会などにボランティアが協力してくれたりするなど交流している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的な挨拶や地域行事や清掃にも参加し施設の行事への参加を呼びかけ繋がりを守るようにしている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	近隣への散歩で挨拶をしたりしている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	施設の畑の世話や利用者の知り合いの人が談話に来られることもある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩の時挨拶を交わしたりしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティアの方に行事に参加してもらい利用者との交流を図っている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	何処に行きたいか相談し出かけているが一部の人しか出来ない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の保育園小学校と定期的に交流している。消防訓練等で交流している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回参加を呼びかけ地域の方や担当者の参加はあるが、家族の参加少ない。	/	◎	△	運営推進会議は自治会長や民生委員、介護相談員、老人会長などの参加を得て開催している。会議に利用者や家族の参加が得られていないため、運営推進会議の意義や目的を伝えるなど協力が得られることを望みたい。会議では、利用者の状況や活動報告を行うほか、外部評価の結果を報告し参加者と意見交換を行っている。また、会議で出された意見を運営に反映し、サービス向上に努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者の近況、施設の行事等報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議等意見や話し合いなどをサービス向上に活かしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出席しやすい日程時間帯を工夫し、家族にも参加を呼び掛けている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	施設内では閲覧できるし、市の担当課には送付している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念を目につく場所に掲示し取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	入口に掲示しているが、わかりやすくは伝えていない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修も限られているが必要があれば受けられるよう取り組んでいる。	/	/	/	年間計画を立てて研修を実施し、管理者は職員のサービスの向上に努めている。働きながら子育てができる環境や職能手当の創設など、働きやすい労働環境の整備を行っている。また、管理者は年2回職員と個人面談をして評価を行い、職員の意欲の向上に役立っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	必要な研修には参加できるようにしているが限られている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の個々の目標達成計画を作成した後面談によって意見思いを聞いている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	施設長会・主任副主任会・ケアマネ会等に出席し、他施設と交流し現状を話し合っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	希望休はなるべく取れるようにシフトを工夫している。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会で学んでいる。	/	/	/	毎月開催する学習会では虐待防止について学ぶ機会があるほか、虐待防止マニュアルを作成して職員に周知している。不適切なケアや虐待につながる言葉遣いはないか常に注意を払い、気づいた時は職員同士で注意を合ったり、ケース会で話し合ったりして検討している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送り時、全体会を定期的に開いている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	マニュアル作成し勉強会等に徹底している。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員のストレスが利用者のケアに影響していないか注意を払っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会研修を通じて理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会ケース会にて機会を設け検討している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	その都度対応理解を図っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームまなべ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	勉強会等で学んでいるが、理解できているかは不明。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	状況提供や相談は出来ていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	連携は取れていない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアル作成し周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	勉強会等で身につけるように努めているが、訓練は出来ていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットを記録しその都度話し合いの場を設けて再発の防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケース会を通じリスクを把握し事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	マニュアルはあるが全員が対応できるかわからない				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた場合は誠意をもって迅速に対応する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情の当事者に対して迅速に対応を行い納得を得られるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	殆ど行われていない。日々の関わりの中で聞いた言葉や態度から察することが多い。			○	職員は利用者との日常会話の中で要望を聞き取るほか、入浴時間を活用して思いを聞いている。比較的家族の面会が多く、来訪時には職員から必ず声をかけて話してもらえぬ雰囲気づくりに努めている。職員は管理者にケース会等で意見や提案を伝えやすい環境があると感じている。家族アンケートでは事業所のケアに対して多くの感謝の言葉が寄せられており、運営推進会議や家族会等さらに意思疎通を図る機会を増やすことを期待したい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	入居契約時説明をし日頃から何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。		○	△	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	入居契約時には説明しているが、その後は出来ていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	社員の提案箱を設置している。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	年2回の職員全員との面談を実施し意見を聞いている。				

愛媛県グループホームまなべ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年1回全職員が取り組んでいる。	/	/	/	外部評価の結果は、運営推進会議で報告して参加者から意見や助言を得ているが、目標達成計画の進捗状況の報告はされておらず、実施状況を報告してさらなるサービスの向上に役立てて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通して事業所の現状や課題成果を振り返ることが出来職員の意識を確認できる。	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し達成に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	今後の取り組みとして必要。	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	取組事項は提示しているが結果は確認できていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアルを作成している。	/	/	/	事業所に隣接して法人が運営する有料老人ホーム等があり、災害発生時に協力し合える環境ができています。地区の防災訓練に参加したり、運営推進会議のテーマに防災等を設定して報告を行い、参加者から助言を得ている。さらに、大災害時の避難行動について職員や家族に周知し、万全の体制を構築することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の訓練を実施している。内1回は消防署立会いで行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	避難訓練等には近隣住民の参加も促している。	×	△	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	合同で訓練を実施している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	運営推進会議で地域の方々に情報を伝えている。	/	/	/	法人全体で地域住民に信頼される事業所として積み上げてきた実績があり、事業所には多くの入居相談が寄せられている。今後さらに、職員間で話し合いながら、地域に根ざした地域住民に頼られる事業所となっていくことを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	家族の方、入所申込み等で相談を受けている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	×	行っていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	受け入れはしている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	情報収集や情報提供を行っている。	/	/	○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年2月19日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870600719
事業所名	グループホームまなべ
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏名	久門 房恵
自己評価作成日	令和 2年 1月 20日

<p>【事業所理念】                  ○入居者一人ひとりが自立した生活を営むことが出来るよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供及び支援をいたします                  ○一人ひとりが穏やかに、よりいきいきと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供出来る様努めます                  ○主治医や協力病院と連携して、入居者が健康に生活できるよう援助します                  ○地域の人達との交流を図り入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます                  ○市町村地域の保健医療福祉サービスと連携して総合的なサービスの提供ができるよう努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】                  利用者個々の情報が職員全員で共有できるよう用紙を作成するよう試みた。社員での話し合いでは上手くまとまらず、グループ内で使用している用紙を活用している。情報を得た都度の書き込みが十分に出来てなく、今後継続して取り組んでいく。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】                  住宅地の中に立地する事業所は、有料老人ホームに隣接されている。これまで地域住民に信頼される事業所として法人全体で積み上げてきた実績があり、作業療法士の専門的指導や緊急時の医療対応等、関係医療機関との連携を密に取ることができている。職員は利用者一人ひとりが持っている力を発揮しながら、自分のペースで過ごせるよう努めており、行事担当職員を配置して、毎月のお楽しみ会や食事を企画し、利用者の暮らしに変化が持てるよう支援している。また、保育園児や小学生、ボランティアの人々との交流の機会も多く、移動図書館が駐車場に停留するなど自然な形で近隣住民と交わる機会がある。事業所では利用者が相互に関心を寄せながら、穏やかな表情で過ごしている様子が印象的であった。</p>
---	--	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者一人ひとりの会話を大切にしながら思いを把握しようと努めている。	◎	/	○	職員は知り得た情報をもとに、利用者の好きなことを話題にして思いを引き出すよう努めている。思いを表すことが困難な利用者には、表情や行動で推測したり、家族に確認したりするなど、把握できるように努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の表情や動作などからくみ取ろうと努力している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	家族の面会時に出来るだけ本人の事を伝え、共有しようと努めている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	申し送りノートや気づきノートや生活記録に記入し共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	気持ちに沿った介護が出来るよう総合的に見つめる目を養うよう努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	入居前同居の方もおられ、姪の方がお世話されていたりで情報が少ないこともある。	/	/	○	入居時に、今の私の姿や昔の生活を家族に記入してもらい、利用者の馴染みの暮らし方等の情報を収集している。また、関係機関や利用していた介護サービス事業所からも情報を得て、フェイスシートに記録している。現在、職員間で書式を検討しており、利用者理解に役立てようとしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の中で利用者様に関り、現状を把握し情報の共有に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	利用者一人ひとりの関わりにおいて日々の様子を記録し対応している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	利用者との会話によって心の内を探ろうとするが、把握しきれない部分もある。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の記録によって様子など観察しながら変化に敏感になるよう努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の思いに沿ったケアを日頃からチームで話し合い共有するよう努めている。	/	/	○	一人ひとりのできることに注目して、職員は利用者が力を発揮しながら、それまでの暮らしが続けられるよう考慮して生活課題を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ユニット会によってチーム全員が利用者一人ひとりの立場にたって検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	現状を細かく把握することによって良い方法を検討している。	/	/	/	

愛媛県グループホームまなべ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ニーズに沿って家族本人の意向を探りながらケアプランを作成するようにしている。	/	/	/	職員は利用者や家族から聞き取った意向を大切に考え、介護計画に取り入れている。医療情報は、かかりつけ医の診療時に得た情報を計画に反映させている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人への関わりや介助中に知り得た情報を共有し話し合い作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	日々の記録を振り返り出来る事を大切に重視している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	行事や病院受診等ボランティアの方や家族の方のアプローチによって関わるようにしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	利用者一人ひとりのプランに沿って日々確認している。	/	/	◎	毎月開催するケース会でカンファレンスを実施し、職員は介護計画の内容を理解して共有している。介護計画は利用者一人ひとりの生活記録に綴じ、職員は日々確認しながら支援を行い、サービスの実施状況を記録してモニタリングに反映させている。また、利用者の言葉や行動を記録に残し、利用者理解に努めている。職員の気づきや提案は気づきノートに記載し、共有できるよう工夫している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケース会でケアの実践によつての結果等話し合いより良い方向へ繋げている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	記録しているが簡潔すぎる事もある。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	利用者一人ひとりへの関りによって申し送りで伝え、より良い方向へ導いている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月6か月に1度又は利用者の変化の応じて見直しをしている。	/	/	◎	3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。職員は毎月モニタリングを実施し、介護計画のサービス実施状況を確認している。状態の変化があった利用者にはその都度介護計画を見直している。状態に変化がない利用者にも3～6か月に1回カンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に1度ケース会にて現状を確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	心身の状態の変化が生じた場合は家族に伝え新しい計画へと変更している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	1か月に1回はユニット会にて意見交換を行っている。	/	/	○	毎月開催するケース会や期間ごとのカンファレンスで話し合うとともに、緊急時はその都度職員間で協議して検討している。職員は話し合った内容を申し送りノートに記載するとともに、議事録を作成して情報共有に漏れないよう努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	個別の状況交換が出来るよう話しやすい環境作りを努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	子育て中の人の参加は難しいが全員が参加できるよう開催時を考慮している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	後日報告書により情報の共有をしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートに伝達事項を記入し見た者はサインを入れるようにしている。	/	/	○	職員が共有すべき情報は申し送りノートや気づきノート、会議録を活用して伝達している。職員は確認後にサインをして確実に共有できるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りや申し送りノートにて全社員が周知できるよう工夫している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	意思疎通が可能な利用者には出来る限り叶えられるよう努めている。	/	/	/	職員は生活のあらゆる場面で質問形式で利用者へ声かけを行い、自己決定ができるよう支援している。困難な利用者には、一人ひとりの能力に応じて自分で選択ができるよう職員は声かけを工夫している。職員は利用者が笑顔になるよう話かけ、和やかな雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクリエーションやパズル、新聞に目を通すなど本人の気持ちを確認しながら対応している。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	無理強いせず利用者の気持ちを汲み取りながら支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	自立されている利用者の個々のペースを大切にしているが、全介助の利用者には難しいところがある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	出来るだけ笑顔が見られるよう、不穏にならないような声掛けで対応している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	顔の表情や手ぶり、身振り等を読み取りながら支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	「人権」や「尊厳」について学び、常に声掛けや行動に注意している。	/	◎	○	毎月開催する学習会で、職員は人権や尊厳について学んでいる。職員は利用者の生き方を尊重して思いやりを持って関わるよう努めており、誇りやプライバシーを損なわないよう言葉遣いにも留意している。排泄の失敗があった場合には、職員がそれとなくトイレに誘導したり、入浴時には同姓介助を行ったりするなどの配慮をしている。居室の扉は閉じられており、職員はノックした上で声をかけて入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者一人ひとりに対して敬意を払い声掛け等気を付けている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	利用者一人ひとりに対して不安にならないよう声掛けに配慮しながら介助を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室の際にはノックして充分配慮しながら行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修や全体会等で理解を深め防止に努めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者との会話において色々教えてもらったり、その事に感謝の気持ちを伝えていく。	/	/	/	職員は利用者の性格を把握し、トラブルにならないよう間に入っている。利用者同士が口論になった場合には座る場所を変えたり、利用者の気分転換したりできるように支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の関係性が構築されると現場も落ち着く事を理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	△	利用者同士の関係性を把握しテーブル座席の位置に配慮している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルのあった時は、社員が間に入り解消に努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームまなべ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	本人との会話によって把握するように努めているが、情報が少なく難しい方もいる。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	情報がある利用者なら把握するよう努めているが難しい。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	面会に来て下さることもあるが、社員との外出は難しい。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	特別な事情がない限りは談話が弾むよう居室での面会を配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	行事によっては外出もあるが社員間のチームワークが不可欠なので戸外に日々出られるような取り組みが必要。	○	○	△	事業所周辺を散歩したり、大型車輛を活用して季節ごとの花見に出かけたりしている。現在、職員の勤務体制上で外出が困難になっており、職員は工夫して利用者の外出できる機会を増やしたいと考えている。駐車場にベンチを置くなど、重度の利用者にも戸外に出る機会が増えるような工夫を期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の穂と都の関りが利用者の方も必要なのでもっと外出、散歩の機会を増やしたい。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	窓際での日向ぼっこ等出来る範囲で過ごしている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	出来ていない。家族の協力が得られる人もいるが、そうでない人もいる。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症についての勉強会などによって、理解し支援の方法を探っている。	/	/	/	定期的に法人に所属する作業療法士の来訪があり、職員は指導を受けて利用者一人ひとりが持っている力を活かせるよう支援している。また、日常生活の中で家事の手伝いなど、利用者が役割を持って生活できるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日々の利用者の状態を把握し社員と一緒に廊下歩行や立位訓練・体操等を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者と一緒に見守りながら自尊心を傷つけないよう言葉かけにも気を使っている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者それぞれの生活歴、習慣など把握するよう努めている。	/	/	/	職員の動きを見て、職員に「手伝いをする」と声かけてくれる利用者もおり、お盆拭きや洗濯物たたみ、モップがけを一緒にしている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者の出来る事を大切に一人ひとりの役割を探そうとはしている。	◎	△	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	散歩などで出ると地域の方との関りが持てるのが、出来ていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人の好みの服などを把握するよう努めている。				定期的に事業所では訪問理美容サービスを利用することができ、すべての利用者が清潔な容姿で過ごしている。髭剃りが不十分な利用者には入浴時に職員が整えたり、不適切な服装が見られた利用者には無理強いをしないで、それとなく更衣してもらったりするよう配慮している。重度な状態であっても、職員は利用者の毎日更衣や整容をして、清潔に過ごせるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	入所時に生活歴等情報を得て上で支援しているが、そうでない方もいる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者の気持ちに沿えるよう支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	本人の持たれている服装など自己決定に努めている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	プライドを大切にさりげなく整えている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	指定の訪問美容師さんに来てもらっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	美容師さんによってその人らしくカットしてもらっている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事の一連のプロセスの意味の大切さは理解している。				朝食と夕食は各ユニットで職員が調理し、昼食は外注の副菜を試しているところである。利用者の希望を献立に取り入れて業者に依頼したり、菜園で収穫した野菜が食卓にのぼったりすることもある。また、月1回の行事食の日には、利用者の好みのピザやオードブルを注文して楽しんでいる。利用者はごぼうのささがきやもやしの根切りなど食材の下ごしらえ、食後の後片付けを手伝っている。食器は利用者の状態に合わせて使いやすい物を事業所で選んで使用しているが、茶碗や箸など専用の食器を使用することで、より家庭的な雰囲気のある食卓になるよう工夫して欲しい。また、職員も一緒に食卓を囲み、ゆっくりとした食事介助や利用者に気配りをしながら声かけをしている様子が見られた。重度な利用者も同じ食卓で、食事形態を工夫した食事を摂っている。食事当番の職員は栄養が偏らないよう、肉と魚を交互にする工夫などをしながら献立を考えているが、朝食の献立の記録が残されておらず、利用者の1日の栄養摂取量を推測できないこともあり、記録することを望みたい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	献立づくりや調理・後片付け等は社員が行い、一利用者が出来る場所はお願いしている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	調理や買い物等利用者とともにには行っていないが、お盆拭きや下ごしらえは出来る方をお願いしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	利用者一人ひとりの好きなもの、苦手なものの把握に努めている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	昼食はレトルトの食事になっているが品数の多い献立となっている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの嚥下等やむせ込みのみられる利用者や、義歯も入っていない方等食べやすいように調整している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	それぞれのコップやお箸等で軽く持ちやすいものを使用している。			△	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者と同じ食卓を囲んで食べこぼしなどさりげなくサポートしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	皆で同じ食卓を囲んで美味しく食事できるよう配慮している。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者それぞれの食事を把握し、一日の水分量・食事を記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事の量や水分量が少ない場合には、高カロリードリンクにて対応している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士のアドバイスは受けていないが、献立のバランスには配慮している。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	賞味期限内での使用や食材等の保管には気を付けている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケア食事の際の姿勢には気を付けている。	/	/	/	職員は口腔ケアの重要性を認識しており、毎食後ほとんどの利用者の口腔ケアを行い、口腔内の状況を把握している。使用している義歯は、每晚洗浄して清潔を保っている。家族の要請で訪問歯科診療を活用している利用者もいる。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	利用者一人ひとりの義歯の状態等を把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	学べていない。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	口腔ケアを社員と行う事で支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口腔ケア前のセッティングや所々の介助にて支援している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	利用者の口の中の状態によって不具合が生じた場合には受診をお願いしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修や勉強会で排泄に関する知識など学んでいるがおむつはずしへの意識は職員間では薄い。	/	/	/	日中夜ともに職員は利用者がトイレで排泄できるよう支援している。夜間のみ、おむつやポータブルトイレを使用する利用者もいる。排泄用品の使用は職員間で話し合い、試行錯誤しながら時間帯や排尿状態に適した物を選択している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事量や水分量、日々の運動が原因になる事は理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個々の日々の記録によって状態を把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人ひとりの排泄の状態を把握し適切な支援を行うよう努力している。	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	一人ひとりの排泄のパターンを把握しながらも自然排泄を促すよう努めている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターンや兆候に合わせて早めの声掛けや誘導を行うよう努めている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	昼間はトイレ誘導の声掛けを行い、夜間はおむつ対応になっている利用者もいる。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者一人ひとりの状態によって可能な限りパット類の使い分けをしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食事・水分・運動等細かくチェックしながら個々の状態に応じた支援をしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	個々の入浴様式に合わせて支援している。	/	◎	○	2日に1回の入浴を基本として、和式の家庭浴槽で職員は利用者がゆっくりと入浴できるよう支援している。利用者の習慣を大切に考え、職員は湯の温度や時間など、できる限り希望に添えるよう努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	一人ひとりがゆったりと入浴でき気分転換になるよう支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来るところはして頂くよう支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴する事で心身のリフレッシュになるよう支援している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや水分補給、本人の状態を見極めながら支援している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	睡眠パターンは把握しているが、その時々で対応している。	/	/	/	眠剤を常用している利用者は少なく、日中を活動的に過ごしてもらったり、職員は不安感に寄り添ったりする工夫をしている。利用者がなるべく薬剤に頼ることのない安眠や休息ができるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	精神的な要素や運動不足等いろいろな角度から把握し社員同士での情報を密にしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	利用者の心の状態も関与していると思うので、安心できる環境作りに配慮している。	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者の体調によって午前午後心身を休めるよう配慮している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	本人の要望によって電話や手紙の中継ぎはしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	必要な手助け等の支援はしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	気兼ねなく電話できるような雰囲気作りは今後必要。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いた手紙やハガキなどは本人とのコミュニケーションを図るよう配慮している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	本人から要望があれば電話出来る。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	意味や大切さは理解しているが、物取られ妄想があるので難しい。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	必要物品などは家族に持ってきてもらっている。お金の所持はしていない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物への支援は行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	お金を所持している人はいない。必要なものがあれば面会を兼ねて家族に持ってきてもらっている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	お金は所持していない。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理方法や家族への報告の方法などルールは明確化している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族から相談があれば柔軟な支援やサービスが出来るよう取り組んでいる。	/	◎	○	協力医療機関の受診は職員が付き添い、他科の受診に家族が付き添えない場合にも柔軟に対応している。訪問マッサージを利用したり、家族の協力を得て馴染みの美容院へ出かけたたりできるよう支援している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(3)生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	花を置いたり、畑で野菜を育てたりしている。壁にディスプレイを貼っている。	◎	○	○	玄関先には季節の花が植えられ、庭にある広い菜園では野菜を栽培している。日中玄関は施錠されておらず、気軽に出入りすることができる。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	写真や絵・自作の習字を貼ったりカレンダーを下げたりして家庭的な雰囲気を醸し出している。	◎	○	○	ユニット入口を入るとすぐにリビングがあり、オープンキッチンのある共用空間は明るい印象である。清掃が行き届き、清潔に管理している。毎月、行事担当職員が行事写真や季節にあった飾り付けをしており、季節感が感じられるよう工夫している。また、塗り絵やパズル、新聞等を置いて、利用者はいつでも手に取ることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	いつも利用者の反応に敏感に対応するようにしている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居心地の良い生活空間になるようディスプレイや季節による花を飾っている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	自立している利用者は自室での過ごす時間が取れる様配慮している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	ユニット内の間取りが共用空間から見えないようになっている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居の際使い慣れたものや好みものを持参してもらい居心地の良い空間作りをしている。	◎			居室にはベッドが設置されており、自宅で使用していたソファやテレビなどを配置している。家族写真や誕生日祝いの色紙等を飾っている利用者もあり、居心地の良い空間となっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	廊下の手すりや本人の状態によってシルバーカーの使用で安全に移動できるよう配慮している。			◎	車いす移動する利用者にとっても、事業所内は安全に移動ができる生活空間になっている。トイレ表示を分かりやすく掲示したり、居室を間違えたりしないよう、門札の位置や表示を利用者に合わせて工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室の入口は名前のプレートを付けたり、衣服やシルバーカー等持ち物に名前を記入している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	新聞や雑誌等はいつでも見られるよう配慮している。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をかけることの利用者の心のダメージは理解している。鍵をかけなくても帰宅願望に対応できるよう考慮している。	◎	◎	◎	職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、建物の玄関やユニット出入口は開放されている。見守りを強化して外出しようとする利用者には職員から声をかけ、一緒について歩くなどの支援をしている。落ち着いた利用者や職員が自宅まで一緒に帰り、安心してもらったこともある。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	声掛けや関わり方等対応の仕方で落ち着いてもらうよう試行錯誤している。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	自由な暮らしを支えながら声掛けや関わり方等いろいろ試行錯誤している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に得た情報や家族から得た情報等留意事項把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタル測定や食事量・水分量・排泄・体重等社員間で共有している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	日々の利用者の変化には敏感になり受診につなげている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時にこれまでの受療状況を確認し本人や家族の希望する医療機関へ受診してもらっている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	適切な医療がうけられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院による受診は基本的に家族が行っている。受診結果を家族より報告を受け職員間で共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時にサマリーを提供。必要な情報を書面にて伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中お見舞いによって情報を得たり、家族と連絡を取っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	基本1か月に1回の往診によって医療機関との関係づくりは成り立っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	往診時かかりつけ医に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	必要時はかかりつけ医に相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	かかりつけ医の1か月に1回の往診と利用者の日々の様子変化に気をつけている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	利用者個々の処方箋をいつも職員が目を通せるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	社員間のダブルチェックで飲み忘れや誤薬が無いよう取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	利用者の日常の様子に敏感になり変調が見られた場合には主治医に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬が変更になった場合は申し送りや記録等で確認を行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に状態変化の段階ごとに本人家族等と話し合いを行い意向や支援の内容について話し合いをするようにしている。	/	/	/	入居時に「終末期をどこで迎えたいか」の意向を利用者や家族に確認している。容態の変化があった場合にはその都度、家族や医療関係者が話し合っ方針を共有している。法人の母体が医療機関であり、緊密に連携して対応している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	必要に応じて主治医と相談し支援内容を検討している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	社員との話し合いや主治医との連絡を密にしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	施設でできること・できないことや対応方針についての説明話し合いを持つようにしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	かかりつけ医との関わりによって今後の変化に備えて検討している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族等の心情を受け止め相談しやすい関係づくりに努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症の予防方法や対策について学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルを作成しているが日頃の訓練を行うなどの体制は整えられていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	情報には敏感に感染症発生状況等の最新情報を取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	早めの対応を心掛けている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	社員利用者はこまめな手洗、消毒、マスクの着用をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や日常生活報告書による手紙などで本人の現状を伝え支援方法を考えている。	/	/	/	花見や夏祭り、敬老会等の行事に、家族が参加できるよう案内している。毎月、担当職員は手書きの日常生活報告書を作成し、行事写真と一緒に家族に送付して利用者の暮らしの様子を伝えている。県外に居住する家族には、適宜職員から電話をかけた意思疎通を図っている。また、来訪時には必ず職員から家族に声をかけて利用者の様子を伝え、要望を聞くよう努めている。介護保険制度の変更や人事異動の報告は運営推進会議で行っているが、家族の参加が得られていない状況があり、周知できるような工夫を期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	居室には家族との写真を貼ったり、時間を気にせず本人とふれあえるよう支援している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	ホームの行事への参加の案内や、家族からの要望があればその時々で対応している。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月日常生活報告書を送ることによって本人の現状を伝えている。	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	日頃の関わりの中で家族が聞きたいことや知りたいことなど報告するように努めているが内容を把握できていない方もいる。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族それぞれの本人に対する思いを把握し今まで通りの関係が築けるよう努めている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	×	来訪時に伝えるようにしているが全ての家族に社員の入退職や異動は報告していない。	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事の参加の案内、運営推進会議の参加等機会があれば隣席することで関わりはあるが、なかなか難しい。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	△	来訪時など必要があれば話し合うようにしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	来訪時には話をするように心掛けているが来訪の少ない家族とは十分な話ができていない。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には丁寧な説明を心掛け内容を理解した上で同意してもらっている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去を検討状況になった時には本人、家族と話し合い同意をえるよう、納得がいく退去先に移れるよう支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	利用料金等に変更があった場合は理由や内容を文書で知らせ同意を得るようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	運営推進会議で地域の方に対して事業所の説明を行い理解を得る様働きかけている。	/	◎	/	事業所の駐車場は定期的に移動図書館の停留場になっており、近隣住民も訪れている。かつて飼育していた犬の散歩を担当してくれていた住民や、菜園の管理をしてくれる住民もおり、近隣住民と親密な関係を築いている。また、事業所には保育園児や小学生の来訪してくれたり、七夕会や敬老会などにボランティアが協力してくれたりするなど交流している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	日常的な挨拶や地域行事や清掃にも参加し施設の行事への参加を呼びかけ繋がりを守るようにしている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	近隣への散歩で挨拶をしたりしている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	施設の畑の世話や利用者の知り合いの人が談話に来られることもある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩の時挨拶を交わしたりしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティアの方に行事に参加してもらい利用者との交流を図っている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	何処に行きたいか相談し出かけているが一部の人しか出来ない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の保育園小学校と定期的に交流している。消防訓練等で交流している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回参加を呼びかけ地域の方や担当者の参加はあるが、家族の参加少ない。	/	◎	△	運営推進会議は自治会長や民生委員、介護相談員、老人会長などの参加を得て開催している。会議に利用者や家族の参加が得られていないため、運営推進会議の意義や目的を伝えるなど協力が得られることを望みたい。会議では、利用者の状況や活動報告を行うほか、外部評価の結果を報告し参加者と意見交換を行っている。また、会議で出された意見を運営に反映し、サービス向上に努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者の近況、施設の行事等報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議等意見や話し合いなどをサービス向上に活かしている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出席しやすい日程時間帯を工夫し、家族にも参加を呼び掛けている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	施設内では閲覧できるし、市の担当課には送付している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	法人の理念を提示し日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	入口の見える所に提示しているが説明等伝えていない。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修も限られているが必要があれば受けられるよう取り組んでいる。	/	/	/	年間計画を立てて研修を実施し、管理者は職員のサービスの室の向上に努めている。働きながら子育てができる環境や職能手当の創設など、働きやすい労働環境の整備を行っている。また、管理者は年2回職員と個人面談をして評価を行い、職員の意欲の向上に役立っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	必要な研修には参加できるようにしているが限られている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年2回の個々の目標達成計画を作成した後面談によって意見思いを聞いている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	施設長会・主任副主任会・ケアマネ会等に出席し、他施設と交流し現状を話し合っている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	希望休はなるべく取れるようにシフトを工夫している。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会で理解を図っているが、細かいところまでは理解できていない。	/	/	/	毎月開催する学習会では虐待防止について学ぶ機会があるほか、虐待防止マニュアルを作成して職員に周知している。不適切なケアや虐待につながる言葉遣いはないか常に注意を払い、気づいた時は職員同士で注意を合ったり、ケース会で話し合ったりして検討している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送り時、全体会を定期的に開いている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉使いや関わり方態度が不適切であったり虐待につながっていないか意識するようにしている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員のストレスが利用者のケアに影響がないように日常的に注意を払っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	勉強会によって理解している。生命にかかわる場合はやむを得ないこともあるので家族に相談している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会はしている。利用者の行動の制限とならないよう気をつけている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族等からの拘束や施設長の要望はない。本人の生命に危険がある場合は家族に相談することもある。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	勉強会等で学んでいるが全職員が理解しているとは言い難い。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	情報提供できる状態ではない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	連携体制は築けていない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、勉強会等で周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	勉強会等で知識は備わっているが実践力にみについているはわからない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書やヒヤリハットの記録を社員間で検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者一人ひとりの状態等全員で把握し事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	マニュアルはあるが全員が対応できるかわからない				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた場合は誠意をもって迅速に対応する。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情の当事者に対して迅速に対応を行い納得を得られるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	殆ど行われていない。日々の関わりの中で聞いた言葉や態度から察することが多い。			○	職員は利用者との日常会話の中で要望を聞き取るほか、入浴時間を活用して思いを聞いている。比較的家族の面会が多く、来訪時には職員から必ず声をかけて話してもらえぬ雰囲気づくりに努めている。職員は管理者にケース会等で意見や提案を伝えやすい環境があると感じている。家族アンケートでは事業所のケアに対して多くの感謝の言葉が寄せられており、運営推進会議や家族会等さらに意思疎通を図る機会を増やすことを期待したい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	入居契約時説明を日頃から何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。		○	△	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	入居契約時には説明しているが、その後は出来ていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	社員の提案箱を設置している。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	年2回の職員全員との面談を実施し意見を聞いている。			○	

愛媛県グループホームまなべ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年1回全職員が取り組んでいる。	/	/	/	外部評価の結果は、運営推進会議で報告して参加者から意見や助言を得ているが、目標達成計画の進捗状況の報告はされておらず、実施状況を報告してさらなるサービスの向上に役立てて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通して事業所の現状や課題成果を振り返ることが出来職員の意識を確認できる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し達成に向けて取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	今後の取り組みとして必要。	○	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	取組事項は提示しているが結果は確認できていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルは作成しているが様々な災害の発生への対応は周知できていない。	/	/	/	事業所に隣接して法人が運営する有料老人ホーム等があり、災害発生時に協力し合える環境ができています。地区の防災訓練に参加したり、運営推進会議のテーマに防災等を設定して報告を行い、参加者から助言を得ている。さらに、大災害時の避難行動について職員や家族に周知し、万全の体制を構築することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	×	日中夜間帯の火災など想定して定期的訓練を行っているが、自然災害への対応は策けていない。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に点検している。いつでも使えるよう備品や設備のメンテナンスチェックを行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	消防署に来てもらい訓練を実施している。近隣との協力体制をとっている。	×	△	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	災害時を想定したネットワークづくりはの参加や共同訓練などは行っていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議を催すことで地域の人や警察官や民生委員の方への情報を伝えている。	/	/	/	法人全体で地域住民に信頼される事業所として積み上げてきた実績があり、事業所には多くの入居相談が寄せられている。今後さらに、職員間で話し合いながら、地域に根ざした地域住民に頼られる事業所となっていくことを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入所申込みを通じて相談支援をしている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	行っていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	初任者研修を受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の清掃活動やお祭りなどの行事には参加し連携を図っている。	/	/	○	